

茨戸川浄化対策について

■茨戸川の概要

●最も大きな石狩川の旧川です

茨戸川は札幌市北部と石狩市、江別市にまたがる石狩川の旧川（三日月湖）です。昭和8年に洪水対策を目的として石狩川から切り離され、現在の姿になりました。

●札幌圏の貴重な親水空間となっています

夏にはボート利用や釣り、冬はワカサギ釣りが盛んであり、地域住民の憩いの場所として利用されています。

●地域の漁業、農業を支えています

ワカサギ漁やカワエビ漁などの内水面漁業のほか、農業用水としても利用されています。

●様々な生き物の生息地です

茨戸川の河岸には、ヨシの群落、ヤナギ類などがみられ、カモやサギなどの野鳥や、コイ・フナ、ワカサギなど多様な生き物が生息しています。



■茨戸川の水質問題

●水質汚濁の進行とアオコの発生

昭和 40 年代頃から、周辺都市域の人口増加や市街地の拡大に伴って茨戸川に流入する生活排水や下水処理水が増加しました。茨戸川は水が停滞することが多いため、水質汚濁（富栄養化）が進行してしまいました。

昭和 48 年にはアオコが大量発生するなど、河川環境が著しく悪化し、大きな社会問題となりました。

●茨戸川の水質の動向

事業着手前の茨戸川のBODは8～10mg/Lでした。その後、下水道整備の進捗等により水質は改善傾向にあり、平成27年には、5mg/Lとなっていますが、環境基準である**BOD75%値・3mg/L以下**を達成できていません。

今後、茨戸川へのきれいな水の継続的な導水などにより、水質は年々改善し、概ね 10 年後に環境基準が達成される見込みです。



平成 17 年 8 月 31 日 樽川合流前地点

❓ アオコとは

環境用語の解説

アオコ（青粉）とは、富栄養化によって水中の植物プランクトンが大量に増え、池や湖の水面が緑色の粉をまいたようになる現象です。

アオコは光を遮ってしまうため、水中の植物が枯死したり、酸欠による魚類の死滅、悪臭などを発生させます。

❓ BODとは

BOD（＝Biochemical oxygen demand、生物化学的酸素要求量）とは、最も一般的な水質指標の一つです。汚れた水にたくさん含まれる有機物を、水中の微生物がエサとして吸収する時に必要な酸素の量で表したもので、この数字が大きいほど水が汚れていると言えます。

日本の河川水質の環境基準のBOD75%値 3mg/L は、上下水道に使うことができ、サケ科の魚類やアユなどの生息ができる水質であり、茨戸川では 3mg/L 以下とすることを目標としています。

■茨戸川の浄化対策—水質環境基準の達成を目標に

国（国土交通省北海道開発局）、北海道、札幌市と石狩市は、荻戸川の生物の生息環境の向上、積極的な親水利用、美しい水面景観の保全を図ることができる水環境を目指し、その水質が環境基準を達成することを目標に、昭和53年度より、以下のような事業を行っています。

茨戸川水環境整備

① 茨戸川の浚渫

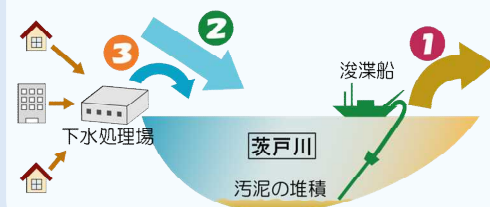
堆積している汚泥を除去して川底をきれいにしました。（昭和 53 年～平成 11 年）

② 浄化用水の導水

3ルート（創成川ルート、雁来ルート、石狩川ルート）から導水して茨戸川へ流れ込む川の水量を増やし、水質を改善します。

③ 下水処理の改善

茨戸川流域にある3つの下水処理場における汚水の高度処理などを実施して、処理場からの処理水による汚濁物質の流入を少なくします。



事業が実施された場合と実施されなかった場合の水質比較

事業が実施されなかった場合

- 環境基準（BOD75%値 3mg/L）が未達成です
- 植物プランクトンが増殖し水質が悪くなります
- アオコが発生しやすくなり、悪臭が発生します
- 水質が悪く、限られた生物しか息できません
- 水辺でのレジャーの快適性が失われます

BOD75%値 8~10mg/L

※事業に着手(昭和 53 年)する前の茨戸川の BOD

事業が実施された場合

- 環境基準（BOD75%値 3mg/L）が達成されます
- 植物プランクトンの増殖を抑え水質が良くなります
- アオコの発生が抑制され、悪臭がほとんど発生しません
- 水質が良くなり、多様な生物が共生できるようになります
- 水辺でのレジャーを快適に行えるようになります

BOD75%值 3mg/L 以下

